

未知なる印旛沼へ



屋形船による印旛沼観察会

平成 25 年 7 月 25 日(木)、印旛沼水質保全協議会主催による「屋形船による印旛沼観察会」に参加しました。

印旛沼の流域に住む方々を対象とした観察会は、1日4便、2艘の屋形船で西印旛沼をぐるりと一周する約1時間のコース。夏休み中ということもあり、私たちが乗船した遠部丸には家族連れやグループ等、小学生からご年配の方まで幅広い方々が乗船されました。



船乗り場では昔の姿も再現！



熱心に聞き入る親子連れ、夏休みの研究にも一役たてたかな？

10時30分発、印旛沼環境基金の瀧講師による船上授業の始まりです。

印旛沼は千葉県農業や工業の発展に大きく関わっていることを中心に、①印旛沼の役割、②沼の“おいたち”、③人々と沼とのかかわり、④新たな“いんば沼”って？沼の機能と利用形態、⑤沼の生き物たちはどうしているの？、生物

たちの仕組み、魚介類、植物 ⑥沼の水はきれい？—水質—、⑦流域の土地利用と人口の変化等、盛り沢山の内容でした。



湖面に広がるオニビシの群生



透明度の調査

特に、西印旛沼の中央付近で船を止め、大量のオニビシを実際に鎌で刈り取り、長さ2mの根っこが沼底に根を張りどんどん繁殖してしまうことや、水質調査として透明度(当日は35cm)の観察を行い、光が湖底まで届かないことなど知りました。

さらに、ガマの穂を刈り取り沼の植生態の現状や、水質改善のために今後どのようにすれば良いか……など現実の問題点にも触れられました。“印旛沼は、農水・工水・上水として役立っている沼、もっと全国の人々に自慢しましょう！”の言葉で船着き場に到着、あっという間の小さな船旅でした。

私たちは、洪水被害のない印旛沼や、安定した水をいつでも供給できるよう沼の水位を管理するなど、ある意味、外観的な見方をしていましたが、あんな小さな印旛沼の中から、さらに中をのぞき見ると、魚や植物、プランクトンなど地球規模に迫り着くほどの大きな世界が広がりました。



ガマを刈り取り植生の説明

次世代へつなぐ印旛沼を守り続けていく為、千葉県を始めとして流域市町や関係機関（水資源機構も含む）では、みためし計画等を作成し水質改善に向けた取り組みを実施しています。

私たちも、自分で汚さない努力をしていかなければと決意しました。